

## 海外感染症流行情報(2011年11月)

東京医科大学病院 渡航者医療センター

### ・タイの洪水被害と感染症

タイの北部や中部を中心に洪水被害がみられていますが、これにともなう感染症の大きな流行は今のところ発生していません(外務省海外安全センターHP 2011-11-16)。しかしながら、今後も被災地では経口感染症や蚊に媒介される感染症について十分な注意が必要です。

経口感染症としては感染性腸炎(多くは病原性大腸菌)やA型肝炎などの流行が懸念されています。A型肝炎については予防接種を受けておくことを推奨します。コレラの流行を危惧する声も聞かれますが、今のところその可能性は低いものと考えます。

蚊に媒介される感染症ではデング熱の発生が予想されます。その一方でマラリアの流行がバンコク周辺でおこる可能性は極めて低いようです。いずれにしても、被災地では蚊に刺されない対策をとることが大切です。

### ・インドネシアで鳥インフルエンザ(H5N1型)が家族内に発生

インドネシアのバリ島で家族3人(母親、息子、娘)が鳥インフルエンザ H5N1 型を発病し、3 人とも死亡しました(WHO Global Alert and Response 2011-10-26、11-15)。最初の患者は5歳の娘で10月9日に死亡しています。次は10歳の息子で死亡は10月10日でした。この直後に母親が発病し、10月17日に亡くなりました。この家族の周囲では、子どもたちの発病前に家禽が死亡しており、2名の子どものについては病鳥からの感染が強く疑われています。しかし、母親については子どもを看病中に感染した可能性も否定できません。

インドネシア各地では家禽の間で鳥インフルエンザ H5N1 型の流行が今も発生しています。国連食糧農業機関の発表では、9月に同国内で行われた調査により、バリ島で最も高い発生率を記録しました(検疫所 HP 22011-11-22)。こうした地域に滞在する際には、生きた家禽を販売している市場などに立ち入らないよう注意するとともに、鳥肉や卵は加熱して食べるようにしましょう。

### ・今年のアジア地域でのデング熱流行

WHO 西太平洋事務局の発表によれば、東南アジア諸国でのデング熱患者の発生数は、10月になり減少しており、患者総数は昨年に比べて少ない状況です(WHO Western Pacific Region 2011-11-11)。国別ではフィリピンで約10万人、ベトナムで約4万人、マレーシアとカンボジアで1万~2万人の患者が報告されています。

南アジアでもデング熱の患者が多発しています。インドでは北西部のパンジャブ州や東部のオリッサ州で1万人以上、パキスタンではラホールなどで1万人以上の患者数となっています(検疫所 HP 2011-11-7, 11-9)。

なお、デング熱に症状が類似するチクングニア熱の患者もアジア各地で発生しています。インド南部のマハラシュトラ州やケーララ州では患者数 1 万人以上の流行がおきています(検疫所 HP 2011-11-7)。インドネシアでも中部ジャワで 100 人近い患者が確認されました(Pro MED 2011-10-23)。

#### ・ギリシャでのマラリア流行

本年 5 月末よりギリシャ南部のラコニア県で三日熱マラリアの流行が発生しています。11 月中旬までに患者数は 60 人以上にのぼりました(Europe CDC 2011-11-18)。

ヨーロッパCDCは患者が発生している地域が観光地ではないため、ギリシャへの観光旅行者にマラリア予防内服は必要ないと表明しています。一方、米国CDCは流行地域周辺に立ち入る者に、マラロンやメフロキンの予防内服を推奨する旨の勧告を出しました(CDC Travelers' Health 2011-10-25)。